

【提出様式】 令和6年度 豊島区立学校 学校評価 自己評価表

豊島区立 南長崎 幼稚園

評価対象者数 (人)			
児童・生徒数	保護者数	教職員数	地域の方
	16	6	9

領域	豊島区教育 ビジョン 2019 基本方針等	評価 番号	評価項目	年間評価																学校関係者による評価		次年度に 向けた 改善策			
				児童・生徒				保護者					地域					教職員					自己評価 概要	学校関係者 評価の意見	評 語
				4	3	2	1	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0	4	3	2	1				
I	就学前から小学 校・中学校への 円滑な接続	I－1	学校は、関係諸機関等(保育園や幼稚園、小学 校、中学校)と連携を図ろうとしている。					15	0	0	0	0	6	0	0	0	0	4	1	0	0	稚名町小学校との交流と もに、近隣保育園に5回 来園していただき、一緒 に活動を楽しんだ。	地域に積極的に出て、連携が 強く皆で育っていくとい うことがわかる。幼小交流の充実 に保育園との連携も加える。	A	栽培、陶芸、すくわくプログラムなど を通して、保幼小の連携を強化してい く。
II	確かな 学力の育成	II－1	学校は、子どもの学力の定着・向上のために、分 かりやすい授業を行っている。	児 童 ・ 生 徒 を 対 象 と し た ア ン ケ ー ト 集 計 表 を ご 参 照 く だ さ い。	12	1	0	0	1	5	0	0	0	1	3	2	0	0	幼児期は直接体験重要で あり、学力の定着につ いては評価できる傾向にあ る。ICTの活用は、わ からないへの回答が11票 あり改善が必要である。	幼児期の直接体験は大切であ る。子どもの人数が少ないこ との利点を活かして保育をし ている。保護者、地域との情 報共有で活用できている。	A	教員自身が、ICTの利用になれ、タ ブレットの活用、HPの掲載などの頻 度をあげるなどしていく。			
		II－2	学校は、ICT機器やタブレット端末等の活用に より、分かりやすい授業の実施や子どもの学びの 意欲の向上に取り組んでいる。		4	1	0	1	9	1	3	0	0	2	1	2	2	0							
III	豊かな 心の育成	III－1	学校は、道徳科の時間を含めた全教育活動をと おして、互いの良さを尊重し合う温かい学校づく りを推進している。		13	2	0	0	0	5	0	0	0	1	4	1	0	0	幼児同士、保護者、教 員、地域の方、みんな で幼児の成長を喜ぶことが できた。当番活動や飼育 栽培を通して、命を大切 にする心が育っている。	区民ひろばの利用者”サロ ンゆい”との関わりは生きる力 につながっている。外部との 連携も工夫・充実してよい。	A	互いのよさを認め合い、安心感をも って園生活を送れるように常につとめ る。当番活動、飼育栽培など引き続 きおこない、命を大切に優しい心を 育てていく。			
		III－2	学校は、生命を大切にする態度や思いやり、優 しい心を育てている。		16	0	0	0	0	5	1	0	0	0	4	1	0	0							
IV	健やかな 体の育成	IV－1	学校は、子どもの体力向上や健康の促進に、積極 的に取り組んでいる。		13	2	0	0	0	5	1	0	0	0	5	0	0	0	園庭、スポーツ公園を活 用して体力向上を図っ ている。食育はわからない という回答が5票ある。	外部との連携も工夫・充実 してよい。	A	スポーツ公園、園庭を活用して、体 を動かすことを楽しんでいく。食育は方 法や内容を考え増やしていく。			
		IV－2	学校は、充実した食育指導を通して、健康教育に 取り組んでいる。		10	2	0	0	3	3	1	0	0	2	2	3	0	0							
V	一人一人を大切 にする 教育の推進	V－1	学校は、いじめ防止等（未然防止、早期発見、早 期対応）に学校全体で組織的に対応している。		14	1	0	0	0	6	0	0	0	0	5	0	0	0	いじめの防止、一人一人 を理解し寄り添う指導に ついては、評価されてい る。特別支援教育につ いては、わからないとい う回答が5票あった。	”ふわふわことば”に共感す る。様々な機会が一人一人の 学びにつながると思う。	A	いじめの防止、一人一人を理解し寄 り添う指導については、今後も大切に 教育をおこなっていく。特別支援教育 への取組は、地域、保護者、教員内 において、説明し共通理解をする機 会を作る。			
		V－2	学校は、子ども達の気持ちを理解するために、一 人一人に寄り添いながら、指導を行っている。		15	0	0	0	0	6	0	0	0	0	4	1	0	0							
		V－3	学校は、特別支援教育や発達障害等に関して、一 人一人に適切な指導を行っている。		10	2	0	0	3	3	1	0	0	2	3	1	1	0							
VI	教師力の向上と 魅力ある 学校づくり	VI－1	学校は秩序があり、子ども達は落ち着いて学校生 活を送っている。		15	0	0	0	0	6	0	0	0	0	4	1	0	0	保護者、地域の方のご協 力のおかげで、園児は落 ち着いた生活をしてい る。	スキップは、学校の授業があ るとき、午前中は使用で きる。ぜひ、活用してほ しい。（早速、5歳児が体験に 伺った）	A	保護者、地域の方との連携を密にし、 子どもたちが落ち着き、心豊かな生活 ができるようにする。			
		VI－2	学校は、保護者や地域の方の意見や要望を受け止 め、学校改善に生かしている。		14	1	0	0	0	6	0	0	0	0	5	0	0	0							
VII	家庭・地域との 連携	VII－1	学校は、学校や子ども達の様子を、学校だよりや ホームページ、学校公開等によって、分かりやす く伝えている。		12	3	0	0	0	6	0	0	0	0	4	0	1	0	学級便りは定期的に発行 できた。HPの掲載につ いては、学年により更新 回数に差が出ている。	学級便りはとても工夫され ていた。様々な発信の仕 方があるので、アナログとデジタル と活用していく。	A	保護者、地域の方からは、子ども の様子を伝えていると評価を得ているが、 教職員の中では学級だよりだけでなくH Pの掲載も行い、地域の幼児教育の拠 点としての役割を果たしたい。			
		VII－2	学校は、家庭や地域と協力しながら子どもを教育 している。		13	2	0	0	0	6	0	0	0	0	5	0	0	0							
VIII	特色ある 教育活動	VIII－1	幼小交流や地域の教育・地域資源（トキワ荘、南 長崎スポーツ公園等）を活用して教育を推進して いる。					15	0	0	0	0	6	0	0	0	0	5	0	0	0	地域の皆様のお力で、 様々な教育活動を展開で きた。	地域を大切にする幼稚園の意 図がよくわかる。	A	地域の方ともしっかりつながり、幼児期の 経験を豊かに、地域の幼児教育の拠点 を目指していく。
IX	働き方改革	IX－1	学校は、校務支援システムの活用や「チーム学 校」を意識した業務分担等により、組織的に業務 の効率化・最適化を目指して取り組んでいる。															0	5	0	0	教職員の協力体制で、効 率的に業務を行ってい る。	園長先生のリードの元、職員 の皆さんが協力することが伝 わってくる。	A	業務の効率化を常に工夫をしていく。 その中でなく、教員の利便性を重視す ることなく、幼児にとっての幼児教育 の質の向上の視点は忘れてはならな い。

※学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の視点で行う。 A 評価は妥当である B 評価はおおむね妥当である C 評価は妥当ではない D 評価方法を見直す必要がある